

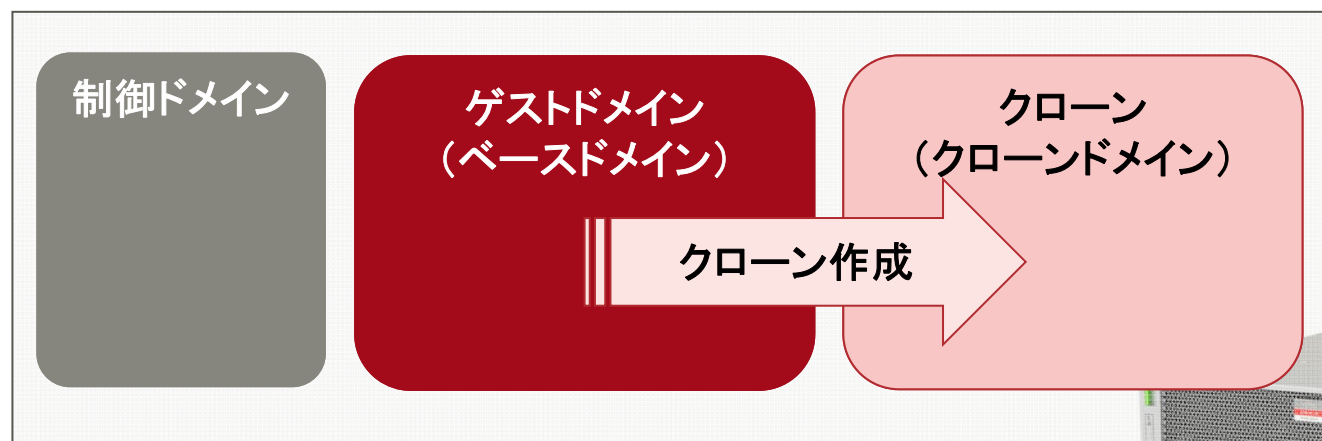


shaping tomorrow with you

Oracle VM Server for SPARC 構築支援ツール **Logical Domain Cloning Tool**

2013年12月
富士通株式会社

■ SPARC M10上で、Oracle VM Server for SPARC の論理ドメインの構成、データをクローニングするツール



SPARC M10

機能

- ゲストドメインの構成、データを利用して、クローン環境を構築
- CPUコア数、メモリ、仮想コンソールポート番号、仮想デバイス名等は変更可能

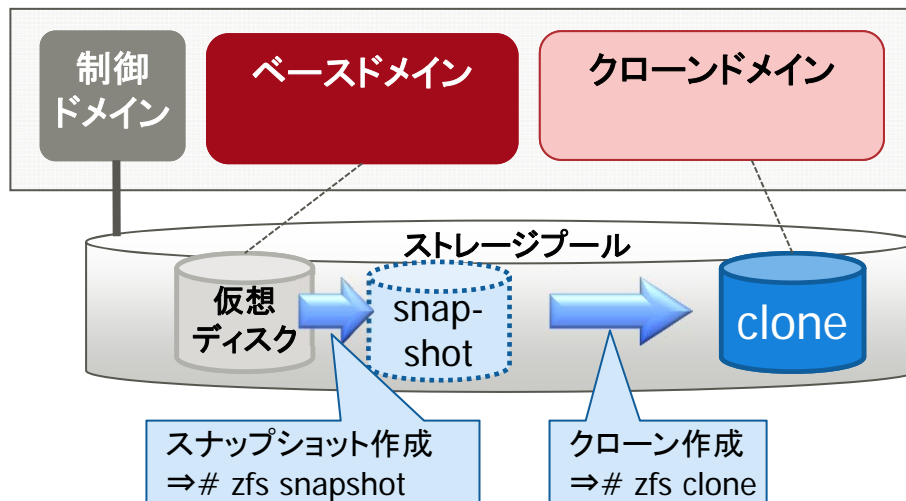
メリット・適用シーン

- 既存のドメインと同じ構成の仮想環境をすぐに作成可能
- OSインストール・各種環境設定が不要
- パッチ適用のためのテスト環境や、開発環境などを簡単に構築
- 異なるZFSプールにクローンを構築することも可能

クローニング方式

■ cloneモード(デフォルト)

- ゲストドメインの仮想ディスクのスナップショットからクローンを作成
- クローンをブートディスクにして、新規ゲストドメインを構築

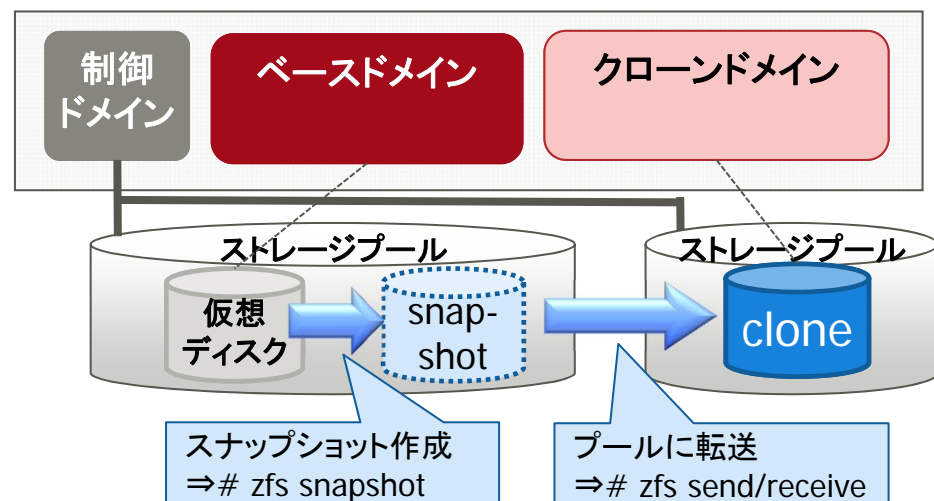


【留意事項】

- ベースドメインとクローンドメインの仮想ディスクは、依存関係を持つ
 - ベースドメインをバックアップデータからリストアする際は、依存関係を入れ替えるなど、運用に注意する
- ベースドメインを起動したままクローン作成可能
- ベースドメインの仮想ディスクはZFSボリュームを使用

■ backupモード

- ゲストドメインの仮想ディスクを、zfs send, zfs receive コマンドで転送
- 受信した仮想ディスクを使用して、新規ゲストドメインを構築

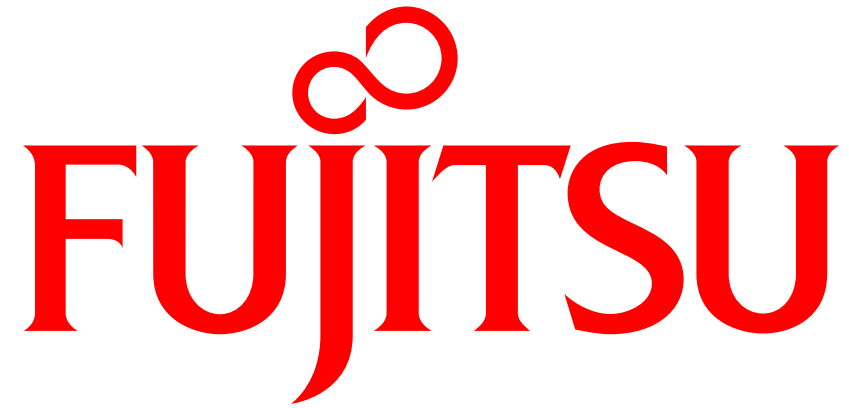


【留意事項】

- あらかじめZFSプールを用意しておけば、ベースドメインと異なるZFSプールにもクローンドメインを作成可能
- ベースドメインは停止してリソースを解除(unbind)する
- ベースドメインの仮想ディスクは、ZFSボリュームまたはファイル*を使用

* ファイルのコピーは、“cp -p”を使用

- 対象機種
 - SPARC M10
- OSの版数(制御ドメイン)
 - SPARC M10 の動作OSに準拠
- Oracle VM Server for SPARC Software のバージョン
 - 3.0以降



shaping tomorrow with you